Akita University

フランスの小学生のための音楽教育と芸術史教育を繋ぐ授業実践†
－「オペラ」を題材としたオンライン学習教材Cours de Lumniから－

吉澤　恭子*
秋田大学教育文化学部*

フランスの小学校では，2008年９月から「芸術史教育」が必修化された．以後，音楽を教える際に「芸術史」の学習素材を取り入れた授業づくりが欠かせない．新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の流行で，フランス国民教育省が中心となって制作したライブ授業放送の録画は，2020年３月末よりオンライン学習教材として無料配信されている．その中から，本稿では「オペラ」をテーマとした小学生の音楽教育のための作品《オペラになんて行かない》（Nous n'irons pas à l'opéra）を取り上げる．

オペラ（Opéra）には，歌劇場と音楽作品の２つの意味がある．授業者はフランス国民教育省の２名の教員である．授業の全体像を把握すること，芸術史の学びがどのように提示されているのか，また音楽作品の特徴からどのような音楽実践や学習活動が取り入れられているのか，実践場面における授業者の言動を元に，それらを考察した結果を報告する．

キーワード：フランスの小学校音楽科，芸術史教育，オペラ，オペラ・ガルニエのシャガールの天井画，Cours de Lumni，オンライン学習教材

はじめに

フランスでは，新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の流行により，外出禁止令発動２週間後の2020年３月23日（月）から，テレビチャンネル France４で，フランス国民教育省の教員による小学生を対象としたライブ授業放送が期間限定で開始された．番組名は La maison Lumni，les cours，１回の授業は約30分，毎週月曜から金曜までフランス語と数学の授業を皮切りに，その後英語，歴史と地理，科学と技術，芸術教育まで拡大していった．

ライブ授業放送の開始に合わせて，フランス国民教育省が外出禁止期間にフランスの公共放送局とともに立ち上げたプラットホームLumni（ルムニ）（https://www.lumni.fr）がある．ライブ授業放送の録画（以下，録画授業）は Cours de Lumni[1]の名称で，無料公開されている．録画授業は，学校教育プログラムの内容に準拠し，自宅にいながら児童が一人であるいは保護者と一緒に受けられる「オンライン学習教材」として用意された． CP（小学１年生）からCM2（小学５年生）まで，学年別に数多く掲載されているが，音楽教育のための録画授業は３点，いずれもCM1（小学４年生，９～10歳）を対象としたコメディ・ミュジカル（音楽劇，comédie musicale）を教材とし，それぞれのテーマは「バンド・デシネ（漫画）」「オペラ」「児童文学」と異にする．

フランスの小学校では，2008年９月から「芸術史教育」が必修化された．現在フランスの小学校の音楽教育は，造形芸術と合わせて「芸術実践・芸術

2023年１月10日受理
†Kyoko Yoshizawa*, Practical Study on Connecting between Music Education and Art History Education for Elementary School Students in France －From "Cours de Lumni" as the Online Learning Material on the Subject of "Opera"－
*Faculty of Education and Human Studies. Akita University

Akita University

史」の名称でプログラム（学習指導要領）に位置付けられている．小学校で音楽を教える際に，「芸術史」の学習素材を取り入れた授業づくりが欠かせない．オペラ（Opéra）には，芸術の歴史，特に建築領域で扱われる歌劇場と音楽作品の２つの意味があることから，本稿では「オペラ」をテーマとした音楽教育のためのジュリアン・ジュベール作《オペラになんて行かない》（Nous n'irons pas à l'opéra）の録画授業（2020年７月27日に公開）を取り上げる[2]．授業の全体像を把握すること，芸術史の学びがどのように提示されているのか，また音楽作品の特徴からどのような音楽実践や学習活動が取り入れられているのか，実践場面における授業者の言動を元に，それらを考察した結果を報告する．

1.　授業実践の全体像

CM1（小学４年生）を対象とする録画授業《オペラになんて行かない》は約26分，場面１のように設定されたバーチャル教室で，電子黒板の前に立つフランス国民教育省の２名の教員が授業を進めて行く．主に音楽実践を導くのがニコラ（左），セシル（右）はニコラを補佐したり，実践内容に反応を示したりする．互いに名前で呼び合いながら，授業が展開していく．

場面１　授業開始時

授業の流れは，表１のように整理できる．導入では「音楽作品，建物，お菓子[3]」を同時に想起させる単語（同音異義語）が何かを，セシルがニコラに問いかけるシーンから始まる．答えは，キーワードとなる「オペラ」である．

次に建築としての「オペラ」に続いて芸術史にふれる内容が約３分，その後に続く授業全体の約77%に相当する約20分が，音楽学習活動に当てられる．最後に本授業のまとめとして，学んだ歌を通して歌う実践が入り，今後の継続的な音楽学習に関する情報が与えられる．

表１　授業の流れ（約26分）

1.	導入（冒頭-0'58）
2.	芸術史の学び（0'59-3'47）
3.	音楽実践（3'48-15'44）
4.	比較聴取クイズ（15'45-23'44）
5.	まとめ（23'45-26'07）

2.　芸術史教育の視点から

フランスの小学校における「芸術史教育」の目的は，児童の好奇心，芸術的創造性，人間と芸術の多様性を発見する態度を育てるとともに，歴史上目印となるいくつかの作品を学ぶことで知識や記憶を豊かにし，さらにフランス史と西洋史における芸術の重要性を強調することにあるとする．芸術史は，５つの時代（先史時代とガロ･ロマン時代，中世，近代，19世紀，20世紀と現在）に区分されている．芸術史の学びに関わる約３分の授業では，フランスの首都パリの歌劇場「オペラ・ガルニエ」を中心に，19世紀から現代のオペラに関する4種類の視覚芸術（画像）が提示されている（表２を参照）．

表２　画像一覧

1. 絵画（油彩）：ジュール・エルヴェ（1887-1981）作《l'opéra la nuit》 1930 年頃 （出典：個人蔵）
2. 写真：ガルニエ宮（建築家：シャルル・ガルニエ），1890 年～1900 年の景観（出典：Gallica.bnf.fr）
3. 写真：シャガールの天井画：オペラ・ガルニエ
4. 写真： オスロ・オペラハウス （ノルウェー），建設：デザイン事務所スノヘッタ（Snøhetta），2008 年（出典：個人蔵）

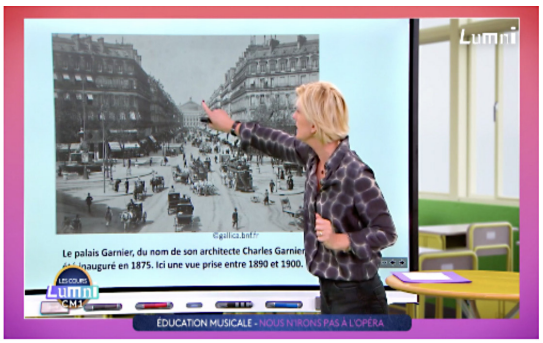
（1）19世紀・20世紀・現代の建築・芸術作品を視覚芸術（画像）で学ぶ

視覚芸術とは，主に写真による画像である．授業は，電子黒板に映し出されているジュール・エルヴェが描く夜のオペラ・ガルニエの画像を背景に開始される（場面１）．次にセシルが好きなガルニエ宮が取り上げられ，建築としてのオペラに関する内容に入る．その場面では1875年に竣工された時代に近い景観が窺えるセピア色の写真が提示され，セシルは

Akita University

写真中央の建物がガルニエ宮であると説明する（場面2）．その後，オペラ・ガルニエのシャガールの天井画が紹介される．その他，フランスには50ものオペラ（歌劇場）が存在することや世界中にはオペラ（歌劇場）があることにふれ，最後にニコラが好きな現代建築の例として，オスロのオペラ・ハウスの画像が電子黒板に映し出される．このように画像を目にしながら解説を聞く場面では，とりわけ音楽作品「オペラ」と深い関わりをもつロシア出身，フランスの画家マルク・シャガール（1887-1985）が描いた天井画に焦点が当てられている．

場面2　ガルニエ宮の説明



（2）オペラ・ガルニエ：シャガールの天井画

ガルニエ宮の「ガルニエ」とは，フランスの建築家シャルル・ガルニエ（1825-1898）から付けられた．ガルニエ宮は「オペラ・ガルニエ（Opéra garnier）」とも呼ばれ，建設以来，数々のオペラやバレエが上演されてきたパリを代表する歌劇場である．芸術史の学びに関わる実践場面での関心事は，1964年にオペラ・ガルニエに取り付けられた「シャガールの天井画」にある．時のフランス文化大臣アンドレ・マルロー（1901-1976）の国家プロジェクトとして制作されたシャガールの天井画には，オペラ・ガルニエ，エッフェル塔などパリを象徴する建造物の他，シャガールの自画像等も含まれているが，偉大なる作曲家たちが残したオペラ作品やバレエ音楽に敬意を表したモチーフが数多く描かれている．

天井画の配色に着目してみたい．外輪（画像1）には J.P.ラモー（1683-1764）とC.ドビュッシー（1862-1918）のオペラ《ペレアスとメリザンド》が白，M.ラヴェル（1875-1937）のバレエ音楽《ダフニスとクロエ》とI.ストラヴィンスキー（1882-1971）のバレエ音楽《火の鳥》が赤，P.I.チャイコフスキー（1840-1893）のバレエ音楽《白鳥の湖》とA.アダン（1803-1856）のバレエ音楽《ジゼル》が黄，W.A.モーツァルト（1756-1791）のオペラ《魔笛》とM.ムソルグスキー（1839-1881）のオペラ《ボリス・ゴドウノフ》が青，R.ワーグナー（1813-1883）の《トリスタンとイゾルデ》とH.ベルリオーズ（1803-1883）の劇的交響曲《ロミオとジュリエット》が緑を背景に，それぞれの作品に関わるモチーフが描かれている．内輪（画像1）にはL.V.ベートーヴェン（1770-1827）のオペラ《フィデリオ》が緑，C.W.V.グリュック（1714-1787）のオペラ《オルフェオとエウリディーチェ》が赤，G.ビゼー（1838-1875）のオペラ《カルメン》が赤と黄に，G.ヴェルディ（1813-1901）は作品名の記載はなく，オペラ作品のヒロインたちが黄を背景に描かれている．

授業では，天井画外輪のW.A.モーツァルトのオペラ《魔笛》（場面3-3）とP.I.チャイコフスキーのバレエ音楽《白鳥の湖》を表している画像が提示された．提示の際には《魔笛》の第1幕よりパパゲーノのアリア《私は鳥刺し》の前奏冒頭，そして《白鳥の湖》第2幕〈情景〉の冒頭からオーボエによるソロ演奏を聴く実践が導入された．

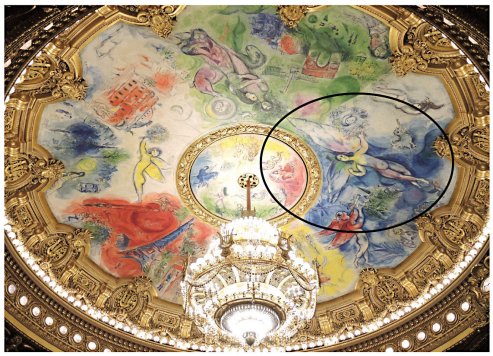
3.　音楽実践：歌唱と聴取

建造物のオペラや歌劇場「オペラ・ガルニエ」を象徴するシャガールの芸術作品の説明に続き，音楽作品《オペラになんて行かない》の実践に入る．子どものためのコメディ・ミュジカル（音楽劇）や歌唱曲を数多く生み出しているフランスの人気作曲家ジュリアン・ジュベール（1973-）が2013年にヴィルクローズ・音楽アカデミー（Académie musicale de Villecroze）に注文を受け，2015年に作詞・作曲した．フランスの小学1年生から5年生および中学1年生を対象とするこの作品（コメディ・ミュジカル）には11の歌と台詞が含まれ，約30分の演奏時間を要する．

授業の目的は《オペラになんて行かない》の「歌」に興味・関心をもたせることにある．小学4年生を対象とする学習活動のポイントとして，歌う・聴く（chanter et écouter），旋律とリズムのモデルを再現・演奏する（reproduire et interpréter un modèle mélodique et rythmique），聴く・比較する・注釈する（écouter，comparer et commenter）が，音

Akita University

画像１　オペラ・ガルニエのシャガールの天井画（2014/12/15，筆者撮影）

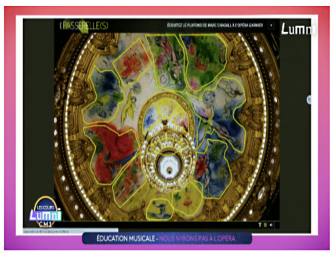


（外輪）
丸で示した箇所の描写：大きな天使が舞台を飛ぶ．英雄パパゲーノを思い出させる１羽の鳥が笛を吹いている．

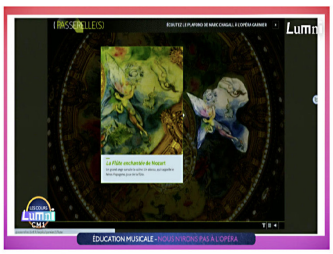
（内輪）
白が中央に置かれ，白を囲むように赤，青，黄，緑に色分けされた中に様々なモチーフが描かれている．

場面３　シャガールの天井画の説明

1. シャガールの天井画の説明（1’49）



2. 作品別に黄色の枠で括られ提示（2’10）



3. モーツァルトの音楽を描写する箇所を提示（2’13）

楽教育のプログラム内容と重なる．

ここで，コメディ・ミュジカル《オペラになんて行かない》のあらすじを簡単に紹介する．

> （あらすじ）　明日はクラスでオペラ（歌劇場）を訪問し，練習稽古に立ち会わなければならなかったのに，学校長が急遽，明日の訪問は工事のため中止になったと知らせてきた．子どもたちはがっかり．代わりに，森にでも散策しにいくのだろうか．その様子をみて，バスの運転手・ワーグナーが，子どもたちをオペラ（歌劇場）に連れて行くことを決断する．

音楽実践，特に歌の習得を目的とする前半の12分間（3’48–15’44）では，《オペラになんて行かない》の第1曲目《オペラで歌うには（1）》（Pour chanter à l’opéra（1））が扱われる．アウフタクトから始まる31小節の歌である．作品全体において，この歌のバリエーションが３回（第５曲，第９曲，第11曲）登場する．作品最後の歌・第11曲には第１曲の完成版《オペラで歌うには（2）》が置かれ，《オペラになんて行かない》の幕が閉じる．音楽実践後半の約８分間（15’45–23’44）では，授業者から「クイズ」が提案される．

（1）歌の習得に関する基本方針

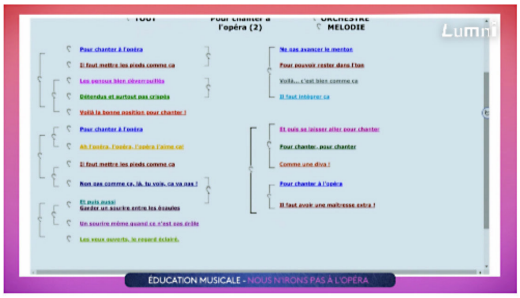
電子黒板に映し出された歌《オペラで歌うには（1）》の歌詞は，２小節単位による音楽フレーズで区切られ，配列されている（場面 4–1）．色は旋律パターンを表す．歌詞の色が同じであれば，同じ旋律をもつことを意味し，視覚的な工夫がなされている．楽譜は一切提示されない．

実践場面では，ニコラがボタンを押すと，演奏録音（聴取実践用もしくは歌唱実践用カラオケ）が流れる（場面 4–2）．聴取実践用音源の演奏はフランス放送聖歌隊（Maîtrise de Radio France）・フランス放送フィルハーモニー管弦楽団（Orchestre Philharmonique de Radio France），指揮はソフィ・ジャナン（Sofi Jeannin）である．

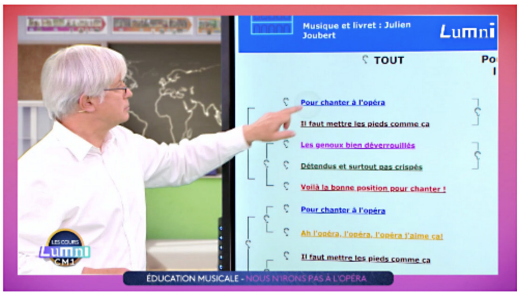
実践場面 4’42から15’01までは，歌《オペラで歌うには（1）》を覚えるための実践に当てられている．歌詞の確認や発音練習に関する指導はない．歌の習得は，電子黒板左側の一番上の列に示す歌詞・音楽フレーズ（青色）から，演奏を聴く・歌う・演奏を聴く・歌うを往還する方法をとる．一つの音楽フレーズから，次の歌詞・音楽フレーズへ移行しても，同じ方法で実践が進んでいく．歌習得の基本方針は「耳

Akita University

場面 4　歌唱・聴取実践



1. 歌の歌詞を提示（旋律パターンは色分けされている）



2. 画面上で指定する場所を押すと，音源が流れる

資料 1　音楽実践（歌唱・聴取）の流れ

時間	言動（N＝ニコラ, C＝セシル）　聴取実践＝PE（音源：演奏録音）　歌唱実践＝PC（音源：カラオケ）	
4’42	N	音楽を聴きます.
	PE	（第 1 曲目《オペラで歌うには（1)》の 1 小節から 26 小節まで）
5’30	N	はい.
	C	で，何を話題にしているの？
	N	この歌は何を話題にしているのかって？
	C	ええ.
5’34	N	（作曲家の意図を説明し始める）ジュリアン・ジュベールは，歌い手の姿勢について歌を作ることを決めた. 実際にオペラの舞台で歌うには，足はこのように置かなければならないし，膝を慣らして，そして両肩の間で微笑みを，T シャツを広げるように大きく微笑んで. ほら，頭はまっすぐにして，顎は前に出さないで，それから特に，目は輝かせて…目は輝かせて，これは歌い手の秘密なのです. つまり人は，口で，体で，目でも歌うのです.
6’08	C	了解. それじゃあ，ちょっとこのようにして…最終的に，目でメッセージを伝えることにトライしてみます.
	N	ぜひとも. 私が提案するのは…，私もやってみよう. みなさん，立ち上がりませんか. いいね，最高. それじゃあ，足をちょっとだけ開いて，腕は楽に，膝はとても軽く，柔らかく，このように曲げられるように. ここで，ちょっと偉ぶって，輝きを増した目つきで…ブラボー！　それでは，この歌を学びませんか.
6’41	C	それでは，歌いましょう.
6’43	N	（電子黒板の仕組みについて，説明し始める）ここに，歌を学ぶために我々をサポートしてくれる道具があります. ジュリアン・ジュベールの音楽は，フランス放送聖歌隊とフランス放送フィルハーモニー管弦楽団の演奏，ソフィ・ジャナンの指揮で録音されたものです. 歌詞フレーズを押すたびに，歌を切り分けることができます. 歌を覚えるための我々へのサポートは，例えばこのようにして始めます.
7’02	PE	1-3 小節（Pour chanter à l’opéra / オペラで歌うには）
7’06	N	これを耳で，ちょっと覚えられるかな.
7’08	PE	1-3 小節（Pour chanter à l’opéra）
7’12	N	それでは，今からみなさんと一緒に歌いましょう. そして，オーケストラの音楽と一緒に歌ってみてください.
7’18	PE	1-3 小節（Pour chanter à l’opéra）
7’23	PC	1-3 小節（Pour chanter à l’opéra）
	N	（カラオケの音源に合わせて, Pour chanter à l’opéra を歌う）
7’27	N	このように進んでいくのがわかったかな？　もう 1 度，やってみます.
7’29	PE	1-3 小節（Pour chanter à l’opéra）
7’33	PC	1-3 小節（Pour chanter à l’opéra）

Akita University

	N	（カラオケの音源に合わせて, Pour chanter à l'opéra を歌う）
7'37	N	ブラボー！
7'39	PE	3-5 小節（Il faut mettre les pieds comme ça / 足はこのように置かなければいけない）
7'43	PC	3-5 小節（Il faut mettre les pieds comme ça）
	N	（カラオケの音源に合わせて, Il faut mettre les pieds comme ça を歌う）
7'47	N	もう１度.
7'49	PE	3-5 小節（Il faut mettre les pieds comme ça）
	N	（カラオケの音源に合わせて, Il faut mettre les pieds comme ça を歌う）
7'52	N	どうぞ.
7'53	PC	3-5 小節（Il faut mettre les pieds comme ça）
7'57	N	あなたたちは本当にとても優れている．この２つのフレーズを歌ってみよう.
8'00	PE	1-5 小節（Pour chanter à l'opéra, il faut mettre les pieds comme ça）
8'07	N	どうぞ
8'08	PC	1-5 小節（Pour chanter à l'opéra, il faut mettre les pieds comme ça）
8'16	N	（画面で歌っている児童の声が）セシル，聞こえる？
	C	ええ．とってもとっても上手.
	N	合唱になるね．少なくとも 27,000 人はいます.
	C	みんな完璧.
8'22	N	感動的！ それでは，次に行きましょう.

で覚えること」にある．画面を見ながら授業を受けている児童たちが，耳で捉えた歌を口ずさみ，少しでも覚えられるようにと復唱させる場面では，カラオケ音源が使用される．その際，ニコラがカラオケ音源に合わせて小さな声で歌ったり，旋律の動きをジェスチャーで示す場面なども確認される．

(2) 比較聴取：歌に隠されたオペラ作品の音楽にふれる

音楽実践の前半では，歌《オペラで歌うには（1)》の第１小節から第26小節（譜例 1–7 を参照）まで取り組んだ．後半は，セシルの発言「(15'02) ところで，この歌を通して，有名なオペラの旋律が聞こえたように思ったけど，それについてもう少し説明してくれる？」から始まる．これに対してニコラは「(15'14) そうですね．ジュリアン・ジュベールは，オペラ（歌劇場）の舞台ではどのようにして歌うのかを示しているだけではなく，子どもが歌うために作られたこの作品（《オペラになんて行かない》）の中で，密かにオペラ作品を子どもたちに歌わせているのです．それはまさにシャガールの天井画のように，オペラ作品の抜粋が少し，あちこちに隠されています.」と解説する．

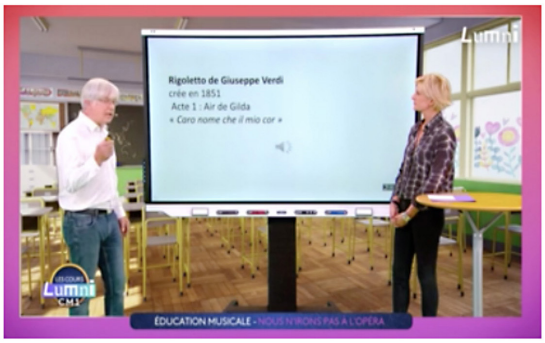
コメディ・ミュジカル《オペラになんて行かない》の第１曲《オペラで歌うには（1)》に見られる最大の特徴は，音楽史で語られる有名なオペラ作品の音楽の一部が，歌の旋律の中に織り込まれている点であろう．表３には，歌の旋律の源となったオペラ作品の原曲名を整理している．31小節の中に，バロックからロマン派の８つのオペラ作品の音楽が隠されていることが分かる．この作品の特徴を生かし，実践場面は切り替わる．

ニコラが「(15'48) 歌に隠された旋律がどこからくるのか，なぞなぞゲームをしようか.」と切り出し，クイズが始まる．原曲の音楽（抜粋）と歌の実践を終えたばかりの第１曲《オペラで歌うには（1)》の旋律による比較聴取が，クイズに答えるための音楽実践となる．クイズは全４問，対象となった作品名は，出題順に表３に示している．

クイズでは，先に原曲名が伝えられる．比較聴取の実践方法は，始めに原曲の音楽を聴き，その後，聴いた音楽が歌《オペラで歌うには（1)》のどの箇所と類似しているのか，前半の歌の実践経験でその類似性が判別できるかどうかが試される．約８分間続くニコラとセシルの発言の中で，何を学ばせようとしているのか，「比較聴取クイズ」の実践場面を，２つの観点から考察する．

Akita University

場面５　第１問目の出題時



4.　比較聴取クイズに学ぶこと

（1）音楽実践（歌唱・聴取）と音楽理解を促す専門用語

１つ目の観点は，音楽実践（歌唱・聴取）前半での経験をふまえ，音楽理解を促す専門用語の学びに関わる．第１問目と第３問目の実践場面が該当する．

第１問目（15’58–17’32）：速度（テンポとレント）

第１問目の場面では，ニコラとセシルの対話が，G.ヴェルディ作曲《リゴレット》からジルダのアリアの聴取実践を挟んで，資料２のように進んでいく．ニコラが質問者である．譜例１に示す歌の調性は原曲の調性（ホ長調）と異なるが，下降していく旋律ラインは共通する．この箇所に何かしら類似性があると気づいたセシルは，原曲と歌の違いは「リズム」にあると思い発言した．それに対してニコラは，リズムではなく「テンポ」，つまり音楽の「速度」であると，実演を交えながら説明する．さらに速度標語･レント（Lento）という専門用語にもふれている．児童の音楽理解を促すニコラの発言の中で最も印象に残ったのは，原曲の旋律やモチーフ等が変化されていることを「変装する（déguiser）」という表現も用い，伝えた箇所である．

第３問目（20’32–22’16）：調性と移調

第３問目の場面では，ニコラとセシルの対話が，G.ビゼー作曲《カルメン》から《闘牛士の歌》冒頭の聴取実践を挟んで，資料３のように進んでいく．ニコラが質問者である．原曲を聴取後，セシルは回答できずに困っている．そこでニコラは，実演を交えながら原曲との調性の違いにふれ，加えて「移調」という専門用語を発している．移調とは高さを変化させることであるとし，児童に分かりやすい言葉で説明している点が印象に残る．

資料２　第１問目《リゴレット》の実践場面

時間		発言（N＝ニコラ, C＝セシル） 聴取実践＝PE（音源：演奏録音）
15’58	N	リゴレットの有名な音楽の抜粋から始めます．リゴレットはジョゼッペ・ヴェルディのオペラで，1851 年に作曲されました．とても短い，第１幕のジルダのアリアを聞こう．ジルダはとてもとても恋していて，胸が高鳴り，“caro nome que...”，それは “愛しい名前，私の心をドキドキさせる”という意味です．お話では，ちょっと発展していきます．聴いてみましょう．
16’26	PE	（G.ヴェルディ作曲《リゴレット》より第１幕ジルダのアリア《麗しい名前》冒頭）
16’41	N	何か分かった？ ジュベールのオペラでは，この抜粋が聴き取れましたか？
16’45	C	ええ．あそこ，最初の部分だと思うけど，違う？
16’49	N	そう，そのとおり．フランス放送聖歌隊の歌を聴いてみましょう．
16’54	PE	（譜例 1）
17’04	N	それでも，分かったり，分からなかったり．同じ歌詞ではないし…．
17’09	C	リズムの点で変化していますか？
17’12	N	それはリズムではなく，テンポと言います．速さですよ．明らかに速い．ジルダは（ララララララララーと歌いながら）そして聖歌隊は（Pour chanter à l’opéra と歌いながら） 確かに，よりレントです．確かによりゆっくりな演奏だ．従って，ジュリアン・ジュベールはこの抜粋を歌の中に隠しました．ちょっとだけ変装して．

Akita University

資料３　第３問目《カルメン》の実践場面

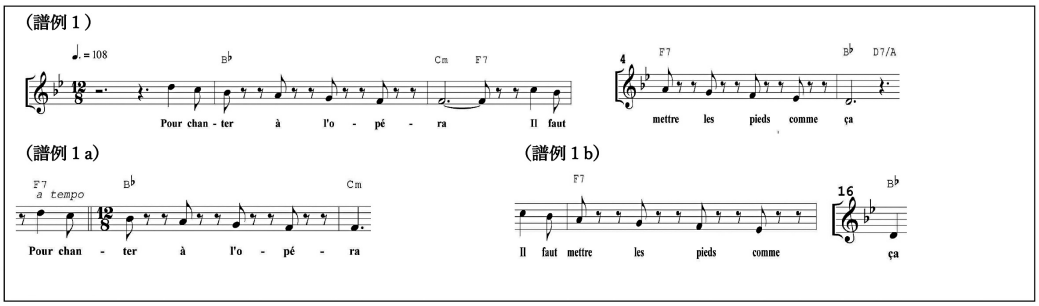
時間	発言（N＝ニコラ, C＝セシル） 聴取実践＝PE（音源：演奏録音）	
20’32	N	それでは，隠された３つ目の抜粋に移ろう．非常に有名な抜粋です．ジョルジュ・ビゼーのオペラ《カルメン》から，「カルメン」を知っているでしょ．パリで 1875 年に作曲されました．オペラ・ガルニエが完成する終わり頃です．さっきは（シャガールの）天井画を見たけれど，その時代とは違います．この抜粋は，非常に有名な歌詞「トレアドール プラン ガルド…（歌いながら）」…それでは聞いてみましょう．
21’01	PE	（G.ビゼー作曲《カルメン》より第２幕 エスカミーリョのアリア《闘牛士の歌》冒頭）
21’14	C	わかりません．その音楽がどこに相当するのか，きちんと説明してくれる？
21’22	N	Non, pas comme ça, là tu vois ça va pas…（歌いながら）
21’26	C	ああ，なるほど．
21’27	N	トレアドール プラン ガルド（歌いながら）
21’30	C	そうね．
21’30	N	ちょうどここです．それではフランス放送聖歌隊が歌っているのを聞いてみよう．
21:34	PE	（譜例 5）
21’38	C	でも，ちょっと変化があるよ．
21’40	N	ああ，それは変化じゃなくて，必ずしも同じ歌詞ではないし，同じ調性でもない．歌えるように，時折ジュリアン・ジュベールは移調しています．つまり，高さを変化させているのです．

表３　第１曲《Pour chanter à l’opéra（1)》に使用されている旋律の箇所と原曲名

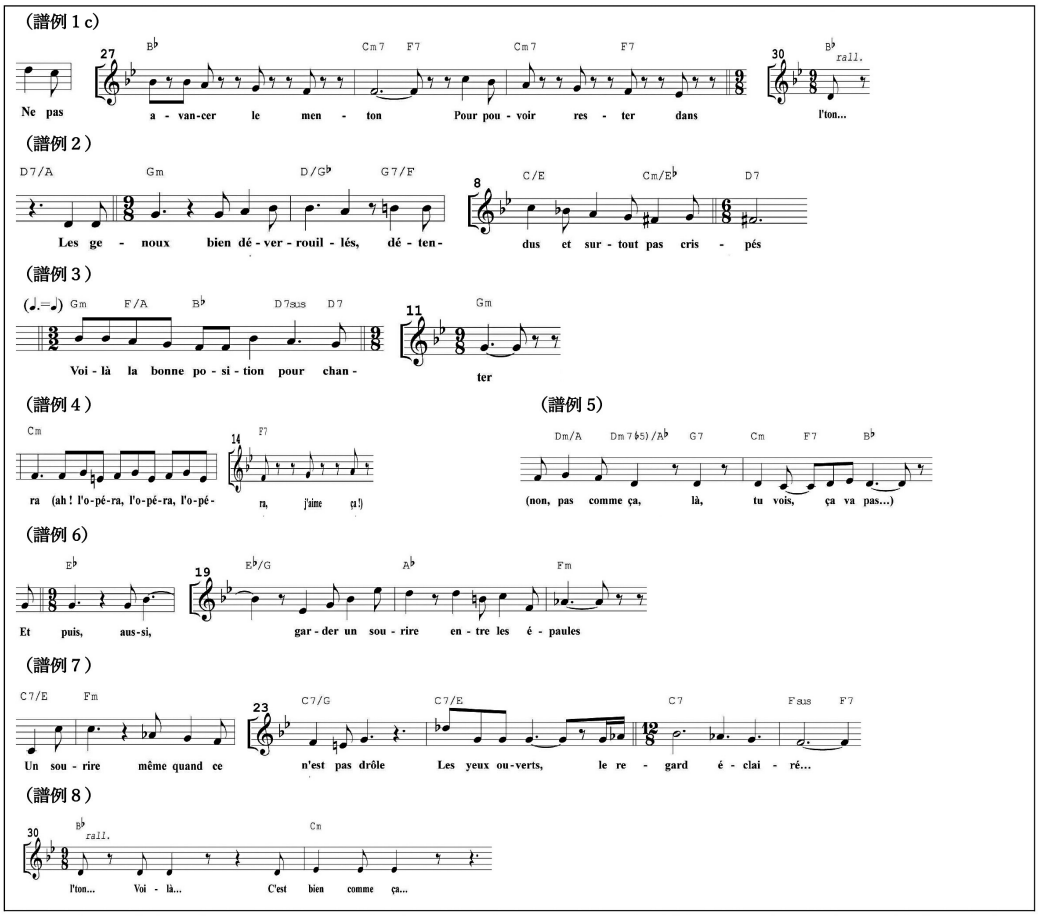
小節	譜例	原曲名	クイズ
1－5	1	G.ヴェルディ作曲《リゴレット》より 第１幕　ジルダのアリア《麗しい名前》	第１問
5－9	2	H.パーセル作曲《ディドとアエネアス》より　ディドのアリア《私が大地に横たわるとき》	
10－11	3	C.モンテヴェルディ作曲《オルフェオ》の〈プロローグ〉から　リトルネッロ	第２問
11－13	1a	G.ヴェルディ作曲《リゴレット》より 第１幕　ジルダのアリア《麗しい名前》	
13－14	4	G.ロッシーニ作曲《セビリアの理髪師》より 第１幕　フィガロのアリア《私は町の何でも屋》	
14－16	1b	G.ヴェルディ作曲《リゴレット》より 第１幕　ジルダのアリア《麗しい名前》	
16－17	5	G.ビゼー作曲《カルメン》より 第２幕　エスカミーリョのアリア《闘牛士の歌》	第３問
17－21	6	C.グノー作曲《ファウスト》より 第３幕　マルグリットのアリア《宝石の歌》	第４問
21－26	7	G.ドニゼッティ作曲《愛の妙薬》より 第２幕　ネモリーノのアリアより《人知れぬ涙》	
26－30	1c	G.ヴェルディ作曲《リゴレット》より 第１幕　ジルダのアリア《麗しい名前》	
30－31	8	G ヘンデル作曲《リナルド》より 第２幕　アルミレーナのアリア《私を泣かせてください》	

原曲名は Nicolas Saddier, Agnès Pernot (2016), “Nous n’irons pas à l’opéra : Fiche pédagogique :《Pour chanter à l’opéra [2]》”, Académie musicale de Villecroze – Réseau Canopé, p. 4. を参照した．

譜例集　第１曲《Pour chanter à l’opéra（1)》(1-31小節)



Akita University



Julien Joubert（2016）, “Nous n’irons pas à l’opéra chant no.1 : Pour chanter à l’opéra [1] (partition chant seul)”, Académie musicale de Villecroze – Réseau Canopé, pp. 2-3. を元に作成.

(2) 音楽史を含む芸術史の知識・教養

２つ目の観点は，オペラ作品の音楽の抜粋による聴取実践から，音楽史の知識・教養や芸術史へ橋渡しを意図する学習内容に関わる．第２問目と第４問目の実践場面が該当する．

第２問目（17’33-20’31）：楽譜とローマ数字

第２問目は，C.モンテヴェルディ作曲《オルフェオ》の短い音楽「リトルネッロ」を聴く場面から始まる．授業進行役はニコラである．

（17’33）次の抜粋を見てみよう．（音楽作品の）全てがお話です．まず聴いてみよう．小さなリトルネッロです．モンテヴェルディの《オルフェオ》からの抜粋です．歌われたフレーズではなく，これは器楽の小さなフレーズで，《オルフェオ》の〈プロローグ〉からの抜粋です．聴いてみよう．

原曲と歌に潜んでいる小さなパッセージ（譜例３）を聴く場面が数回設定されるが，原曲は器楽演奏による．その演奏と比較し，歌の旋律との類似性を耳だけで把握するのは，セシルにとって容易ではない．そこでニコラは作品の解説に入り，《オルフェオ》の初版譜表紙の画像を提示する（場面 6-1）．

（18’46）ジュリアン・ジュベールが，このとっても小さな抜粋を入れたかったのには理由があります．モンテヴェルディの《オルフェオ》に由来するからです．音楽家たちはモンテヴェルディの《オルフェオ》を，音楽史上最初のオペラとみなしています．このオペラは1607年に，マントゥで作曲されました．私は初版の楽譜を見つけました．楽譜はとってもとっても古い．いつも問題をかかえているんだ．告白すると，このローマ数字について，たぶん助けてくれるね．君は私にたくさんフランス語の授業をしてくれたし，きっと数学も…．

場面は替わり，セシルがニコラに頼まれてローマ数字の説明をし始める．資料４のように，二人の対話が展開していく（場面 6-2）．ニコラはセシルの

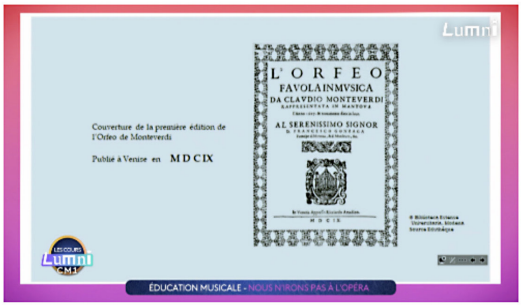
Akita University

２度の説明でローマ数字の意味を理解し，第２問目の実践場面が終了する．ここでは音楽史におけるモンテヴェルディのオペラ《オルフェオ》の位置付けと，古い楽譜に示されているローマ数字の解読から初版譜の出版年を知ることができた．これらが，比較聴取後に導かれた知識・教養である．

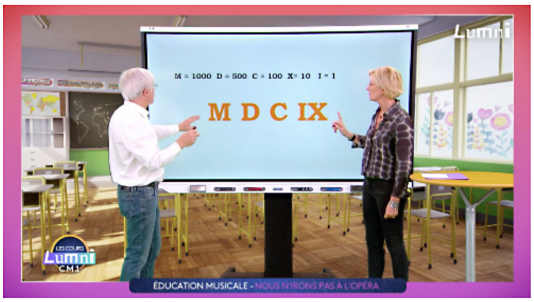
資料４　第２問目《オルフェオ》実践場面

時間	発言（N＝ニコラ, C＝セシル）	
19’32	C	ほら，ここに全てが説明されています．実際，それぞれの文字が数値を表します. M は 1000. D は 500, C は 100, X は 10, I は 1 .
19’44	N	分かった．それなら 1500 に 100 を足して 1600 になる．それに 1 と 10 で 1611 になるね．
19’52	C	違います．そうじゃなくて，ルールがあります．もしこの数字（I）が（X の）ちょうど前にある場合, 10 ひく 1，それで 9 になるんです．
20’04	N	それでは 1000, 500＋100，で 1600 になる．で，君がいったように 1609．つまり楽譜，オペラの歴史で最初のオペラ，モンテヴェルディの《オルフェオ》の最初の楽譜が発見されたのは 1609 年．マントゥでの初演の２年後だね．これで満足．勉強になりました．

場面６　第２問目



1.《オルフェオ》の初版譜表紙と出版年を表すローマ数字



2. ローマ数字の意味と読み方を説明する場面

第４問目（22’17-23’30）：視覚芸術（バンド・デシネ・アニメーション）と音楽

第４問目で取り上げられた音楽作品は，C.グノー作曲《ファウスト》からマルグリットのアリアである．このアリアの旋律と類似する《オペラで歌うには（1)》の箇所は，譜例６に示している．音楽をめぐるニコラとセシルの対話に「タンタン」で意味が通じるバンド・デシネ（漫画）[4]が出てくる（資料5)．「タンタン」は漫画の主人公の名前でもあるが，ベルギーの漫画家エルジェ（1907-1983）のシリーズ『タンタンの冒険』（Les aventures de Tintin）も指す．また「カスタフィオーレ」とは，1963年に刊行された同シリーズ『カスタフィオーレの宝石』（Les Bijoux de La Castafiore）[5]に登場するミラノの歌姫ビアンカ・カスタフィオーレである．原作『カスタフィオーレの宝石』では，グノーのオペラ《ファウ

資料５　第４問目《ファウスト》実践場面

時間	発言（N＝ニコラ, C＝セシル）	
22’17	N	それでは最後の質問です．グノーの《ファウスト》からの抜粋です．パリで 1859 年に作曲されました．マルグリットのアリア《ああ！ 私が微笑んでるのが見えるわ 鏡の中の私 何てきれいなのかしら！》です．何か思い出させることがあるかな？
22’31	C	ええ，完全に「タンタン」の「カスタフィオーレ」を思い出しますね．そうでしょ？
22’36	N	まさしく．この旋律はこうです．カスタフィオーレは典型的な偉大な女性歌手で，「タンタン」の多くの映像で歌っています．「タンタン」で歌いましたね．聞いてみましょう．

画像２　バンド・デシネの表紙（日本語版）

Akita University

スト》からマルグリットのアリア《宝石の歌》が言及されている．また原作を元にした映像アニメーション『カスタフィオーレの宝石』では，カスタフィオーレがグノーのアリア《宝石の歌》を歌うシーンが２度出てくる．

「タンタン」をよく知らない世代の子どもたちにとって，漫画やアニメーションといった視覚芸術は親しみやすい．20世紀の芸術史学習につながる映像作品では一瞬のBGMかもしれないが，耳にしたオペラの音楽が児童に興味・関心をもたらす可能性はあるだろう．

おわりに

本稿では，フランスの外出禁止令時に作成されたライブ授業の録画放送から，小学４年生を対象とした音楽教育のためのオンライン学習教材《オペラになんて行かない》を取り上げ，授業実践に関する考察を行った．学習テーマ「オペラ」をめぐり，音楽教育を軸とする「芸術実践と芸術史」のアプローチや様々な実践方法・内容を把握することができた．音楽実践では，第１曲目《オペラで歌うには（1)》が教材に選ばれた．芸術史の学習素材となるオペラ・ガルニエのシャガールの天井画にも多くの音楽モチーフが隠されていたように，音楽史で語られるオペラ作品の音楽も実践でふれた歌の中に隠されていた．約26分の授業全体を通して，音楽教材がもつ魅力が十分に発揮された構成・内容であったと思われる．芸術領域は幅広い．中でもバンド・デシネの登場人物・カスタフィオーレが歌う《宝石の歌》への着眼点も含め，児童が様々な芸術にふれ，知識・教養を拡げられるような素材を音楽の授業に取り入れる発想の豊かさは，大いに学ぶべき点である．

プラットホームLumniで無料公開されている録画授業を通じて，学校閉鎖，コロナ禍で長引く臨時休校でフランスの児童の学習環境を継続させるために生まれたオンライン学習教材から，フランスの教育現場を体験することができた．本稿では，特に音楽実践（歌唱・聴取）を円滑に進めていく音楽再生装置付き電子黒板などのICT機器について言及することはできなかったが，Les cours Lumniは，現在もフランスの小学校教育のための教育リソースである．こうした学習教材との出会いに感謝したい．

【謝辞】本稿の作成にあたり，パリ市の小学校音楽専科S.シュヴォ先生から《オペラになんて行かない》に関する教育資料を頂いた．この場を借りて御礼申し上げます．

【付記】本研究はJSPS科研費19K02830の助成を受けている．

注

[1] URLはhttps://www.lumni.fr/serie/la-maison-lumni-primaire である．

[2] 他の２つの録画授業では，フランスの漫画家Yvan Pommaux（1946-）のバンド･デシネ『ジョン・シャテルトンの捜査』とサン＝テグジュペリ作『星の王子さま』を題材としている．

[3] オペラ（Opéra）は，フランスを代表するガトー・ショコラ．豪華絢爛なパリのオペラ座（オペラ・ガルニエ）をイメージしたお菓子として「オペラ」と名付けられた由来がある．オペラ座の屋根のアポロン像が，お菓子では金箔で表現されている．

[4] ベルギー・フランスの漫画の名称．フランス語圏では，漫画は９番目の芸術（le neuvième art）と認識されている．

[5] 原作はシリーズ『タンタンの冒険』の第21作目が『カスタフィオーレの宝石』（1963年刊行）であるが，日本では第９作目にあたり1988年に刊行された．なお物語の終盤に，G.ロッシーニ作曲のオペラ《どろぼうかささぎ》が登場する．

参考文献

エルジェ著，川口恵子翻訳（1988）『カスタフィオーレ夫人の宝石（タンタンの冒険)』福音書書店．

芸術新潮編集部「Paris 神話から悲劇まで オペラ座天井画」『芸術新潮』，2013年７月号，pp. 62-65.

Julien Joubert, *Nous n'irons pas à l'opéra*（*chœur-piano*), la musique de Léonie, 30 p.

Julien Joubert（2016), "Nous n'irons pas à l'opéra chant no.1 : Pour chanter à l'opéra［1］(partition chant seul)", Académie musicale de Villecroze – Réseau Canopé, pp. 2-3.

Les cours Lumni
https://www.lumni.fr/serie/la-maison-lumni-primaire（2020/03/23公開，2022/09/05変更）（2022/01/02最終確認）

Mathias Auclair, Pierre Provoyeur（2014), *Le*

Akita University

plafond de Chagall à l'opéra Garnier, Editions Gourcuff Gradenigo, Paris, 107 p.
Ministère de l'Education nationale, de la Jeunesse et des Sports, Direction générale de l'enseignement scolaire, "《La Maison Lumni, les cours》Des ressources pédagogiques au service des enseignements de l'école primaire", 2020, 3 p.
Nicolas Saddier, Agnès Pernot (2016), "Nous n'irons pas à l'opéra : Fiche pédagogique :《Pour chanter à l'opéra [1]》", Académie musicale de Villecroze – Réseau Canopé, 9 p.
Nicolas Saddier, Agnès Pernot (2016), "Nous n'irons pas à l'opéra : Fiche pédagogique :《Pour chanter à l'opéra [2]》", Académie musicale de Villecroze – Réseau Canopé, 6 p.
Nous n'irons pas à l'opéra & Aimez-vous Bach ? de Julien Joubert, éditions radiofrance, octobre 2019. (3-415820-000296) (CD)
大森由紀子 (2013)『フランス菓子図鑑 お菓子の名前と由来』世界文化社, pp. 32-33.
Primaire CM1 Lumni à la télé《Nous n'irons pas à l'opéra》de Julien Joubert.
https://www.lumni.fr/video/laquo-nous-n-irons-pas-a-l-opera-raquo-de-julien-joubert
(2020/07/27公開) (2022/01/02最終確認)
Tintin – 3 aventures Vol.7 : les bijoux de la Castafiore, Vol 714 pour Sydney, Tintin et les Picaros, 2009. (ASIN:B001TEKHLI) (DVD)
吉澤恭子 (2016)「日仏の音楽教育における文化多様性－小学校教育制度から特徴を探る：「音楽教科書」と「芸術実践と芸術史」に焦点をあてて－」『日仏教育学会年報』第22号 (通巻番号No. 44), 日仏教育学会, pp. 44-53.
吉澤恭子 (2021)「フランスの学校教育のためのデジタル・ツールLumni－コロナ禍の音楽教育を支援するビデオ教材『学校でオーケストラ』の活用から－」『日仏教育学会年報』第28号 (通巻番号No. 50), 日仏教育学会, pp. 36-45.

Summary

The "Art History Education" became compulsory in elementary schools in France from September 2008. Since then, it is essential to create lessons that incorporate learning materials from "Art History" when teaching music. Due to the outbreak of the new coronavirus infection (COVID-19), the recordings of live class broadcasts produced mainly by the Ministry of National Education in France have been distributed free of charge as online learning materials since the end of March 2020. Among them, this paper deals with "Don't go to the opera (Nous n'irons pas à l'opéra)" for elementary school music education with the theme of "Opera".

Opera (Opéra) has two meanings like an opera house and a musical work. The instructors are two teachers from the Ministry of National Education in French. In this paper it is shown the results of considering as follows ; to understand the overall things of the class, how the learning of art history is presented, and what kind of music practice and learning activities are incorporated from the characteristics of the musical work, based on the behavior and dialogue.

Key Words : Music in French elementary schools, art history education, opera, The Chagall ceiling at the Opera Garnier, cours de Lumni, online learning materials

(Received January 10, 2023)